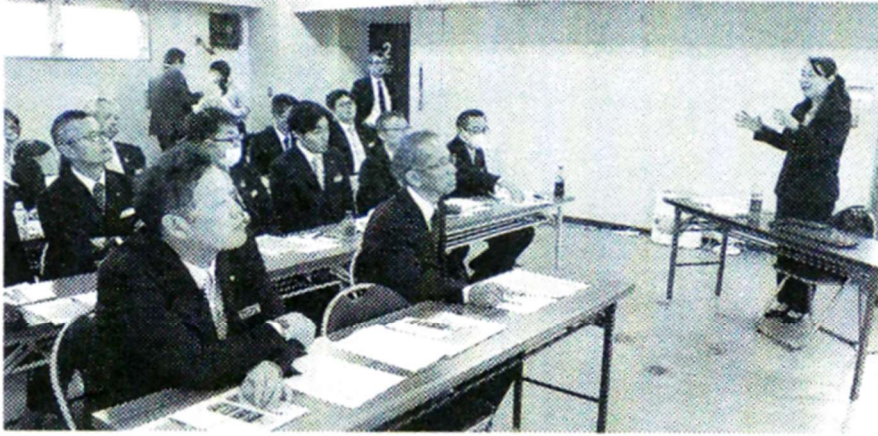


パラリンピック向けおもてなし

ハロー・トーキョー 障害と国別に研修



講師の話に熱心に耳を傾ける乗務員ら（7日、江東区）

両備グループの都内タクシー会社、ハロー・トーキョー（江東区、古谷和秀社長）は7日、本社内で20

20年東京パラリンピック向けおもてなし研修を開いた。本社近くに競技会場や選手村が設けられるため、万全な体制としたい考え。障害の種別に応じた接し方や宗教別・国別のタブーの解説、指差し会話集の活用法などを学んだ。

東京都の助成を受けて開催。講義したのは都の講師で、人材開発コンサルタントの堺真理子氏。「訪日外国人にとってタクシー乗務員は日本人代表で、外交官。誇りを持ってほしい」と励ました。参加した乗務員は各シーンをシミュレーションした。

古谷社長は「選手村は交通が不便な場所にあり、移動手段を自ら用意できない人たちはタクシーを利用する。非礼のないよう勉強し

てほしい。当社や日本のタクシーが素晴らしいサービスをしてくれたと、各国の参加者に感じてもらえたら」と話した。

全乗務員に受講させるため、同様の研修をあと4回催す。7月10日と9月12日、11月5日、来年3月5日。ワンランク上のおもてなし

として、国際マナーなどを学ぶ研修を6月12日と9月4日に開く予定。